

令和4年市議会11月定例会の開会にあたり、各施策の取組状況につきまして報告いたします。

最初に当市に関わる明るい話題から紹介いたします。

日本プロ野球ドラフト会議2022において、市内出身の村松開人むらまつかいとさんが中日ドラゴンズからドラフト2位で指名されました。

入団が決まれば、市内出身のプロ野球選手としては、1987年に広島東洋カープに入団した片瀬清利かたせきよとしさん以来、35年ぶりの快挙となります。

村松さんは、牧之原中学校の卒業生で、静岡高校の2年、3年時には春の選抜甲子園大会に出場し、明治大学では、4年時に東京六大学野球の春・秋リーグ戦連覇や、6年ぶりの明治神宮野球大会優勝に貢献されました。

個人では、3年、4年時に二塁手として二度のベストナインに選出され、走攻守を兼ね備えたプレイヤーとして高い評価を受けておられます。

今後、プロ野球の世界で華々しく活躍されることを市としても応援してまいります。

次に、東京オリンピック金メダリスト「カリッサ・ムーア選手」との交流についてであります。

10月30日から11月4日までの4泊5日間、当市に滞在され、高校生へのサーフィン指導や、小学生との交流などを通じて、子どもたちに世界のトップアスリートと触れ合うことでの大きな刺激と感動を与えていただきました。

今後は、カリッサ・ムーア選手が運営する「ムーア・アロハ財団」と連携し、サーフィンをきっかけとした子どもたちとの相互交流など、オリンピックレガシーとして継続した取組を進めてまいります。

続いて、各施策の取組状況について報告いたします。

最初に「川崎幼稚園の送迎バス園児死亡事件への対応」についてであります。

9月5日に市内の幼保連携型認定こども園「川崎幼稚園」において、送迎バス内に取り残された園児が亡くなるという大変痛ましい事件が発生いたしました。

事件への対応として、静岡県と合同で監査を実施し、10月14日に川崎幼稚園を経営する学校法人榛原学園に対し、改善勧告を行いました。

現在、榛原学園から提出された改善報告の内容を、県と確認しているところであります。

安全管理の対策といたしましては、常葉大学教育学部の木宮敬信きみやたかのぶ教授をお招きして

市内の教育・保育施設の職員を対象とした研修を行い、子どもたちが安心安全に過ごすための安全管理について再確認をいたしました。年度内には、各施設の管理者を対象とした安全管理体制などに係る研修の実施を予定しております。

また、市所有のバスは、園外活動などで市内の教育・保育施設の園児も利用することから、車内に園児が取り残された際の安全対策として、非常クラクションボタンの設置を行いました。

今後も、子どもたちが安心安全に過ごせる環境確保に向けて必要な措置を講じ、命を預かる・育む保育環境の向上に努めてまいります。

次に「新型コロナウイルス感染症」についてであります。

現在、全国で急激に感染が拡大しており、県では「感染再拡大警報」及び「医療ひっ迫注意報」を発令しております。市といたしましても、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備えるため、生活面での基本的な感染防止対策の徹底と、インフルエンザを含めたワクチン接種の啓発などを進めております。

11月20日時点の新型コロナワクチンの接種率につきましては、オミクロン株対応ワクチンは、全年代で18.1%となっております。

小児接種につきましては、5歳から11歳の2回目接種率は23.0%、3回目接種率は7.4%となっており、今後、生後6か月から4歳の乳幼児接種を市内2つの医療機関で開始いたします。

小児接種の接種率は、全国的に低い状況ですが、第7波では子どもの感染が広がったこともあり、引き続き接種率の向上に努めてまいります。

市民に対しましては、年内にピークを迎えると予測される第8波への備えとして、ワクチン接種が可能な人には、できる限り年内における接種をお願いするとともに、体調不良時に備えた新型コロナ抗原定性検査キット、解熱鎮痛剤、食料品などの確保を促してまいります。

そうした中、国から新型コロナウイルスの影響による「電力・ガス・食料品等の価格高騰」に対して地方創生臨時交付金の追加配分を受けましたので、当交付金を活用して、子育て世帯の経済的な負担を軽減するため、高校生以下の子ども一人当たり1万円を支給する「子育て世帯臨時特別給付金給付事業」などを実施いたします。

その他の充当事業につきましても本定例会で補正予算を計上しております。

なお、国では令和4年度第2次補正予算において、当交付金の更なる追加配分を閣議決定しましたので、今後、各自治体に対して追加交付されることが見込まれます。

また、コロナ対策以外にも、ゼロカーボン関連など当市の取組に活用できる補助メ

ニューが含まれておりますので、関係機関などと情報共有し、各施策での有効活用に努めてまいります。

次に「地域防災訓練」についてであります。

今年度の地域防災訓練は、自分と家族の命は自ら守る自助と、皆で助け合い、支え合う共助を実践する訓練といたします。

自主防災会と連携し、世帯別の避難計画「私の避難計画」の作成を進めるとともに、地域防災訓練の中でその実践と、地域での連携、助け合いなどに取り組むことを各自自主防災会に計画いただいております。

また、避難所運営訓練では、避難先における新型コロナウイルス感染防止を考慮し、3密を回避した訓練を行ってまいります。

当訓練を通じて、自助・共助を強化し、地域防災力を更に高めてまいります。

次に「台風15号の被害への対応」についてであります。

9月23日から24日にかけて襲来した台風15号により、多くの建物被害、床上・床下浸水、道路河川の損壊などが発生いたしました。

小規模な被災箇所につきましては、復旧工事を順次行っておりますが、大規模被災箇所の災害復旧は国の補助金を受けて実施するため、12月第2週から第3週にかけて行われる国の災害査定後、速やかに工事を発注すべく準備を進めております。

また、県が管理する市内二級河川の中流部におきまして、越水や溢水が発生し、住家等の浸水被害が発生したことを受け、11月17日に県島田土木事務所、翌18日には県庁を訪問し、県知事をはじめ県議会や関係部局に対して、早急な原因調査とその対応、河川整備区間の早期完了などを要望してまいりました。

市議会議員の皆様や被害が発生した地区の区長にも同行をお願いし、地元の切実な状況を説明したところ、県知事からは「現場を確認し、浸水の原因を究明して対策を検討する」「局所的に流水を阻害している箇所については早急に対応する」との前向きな回答をいただきましたので、今後、県によって順次整備が進められるものと考えております。

今後も、河川管理者である県と連携して、大雨等の災害に対する備えを万全なものとしてまいります。

次に「主要事業の取組状況」についてであります。

東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側地区の開発につきましては、牧之原市IC北側土地区画整理準備組合におきまして、10月18日に静岡県知事に対して土地区画整理組合の設立認可申請を行いました。

現在、事業計画が縦覧に供されており、順調に進めば、来年1月上旬までに認可を受ける見込みとなっております。

認可後は、速やかに第1回総会を開催し、役員を選任、諸規程の制定、初年度の歳

入歳出予算等について議決する計画としております。

市としましても、富士山型ネットワークの充実に係る重要な取組でありますので、円滑な組合設立、早期の事業開始に向けまして、引き続き支援してまいります。

次に「スズキ株式会社相良工場の拡張」についてであります。

10月28日にスズキ株式会社、静岡県企業局と基本協定を締結し、今後、県による「牧之原萩間工業用地造成事業」として実施することが決まりました。

締結式では、スズキ株式会社 ^{すずきとしひろ} 鈴木俊宏代表取締役社長から「EVやCASE^{ケース}に対応するため、相良工場を次世代モビリティの研究開発拠点として再整備し、将来ニーズにしっかりと応えていきたい」という大変力強いお言葉をいただきました。

年明けから県が測量設計や用地調査などを進めるとともに、準備が整い次第、地権者の皆様に対しまして、用地提供の御協力をお願いしてまいります。

本事業は、当市における税収の増加、周辺地域の経済を支える雇用基盤の強化に資するものであるとともに、本市経済の飛躍的な発展と更なる地域振興に繋がるものでありますので、地域の皆様の御理解のもと、県と連携して着実に進めてまいります。

次に「スタートアップの誘致と支援」についてであります。

本年6月に募集を開始した牧之原ビジネスチャレンジコンテストでは、国内外の91社から当市の地域資源を活用したビジネスプランの応募がありました。

10月21日には、ファイナリスト10社によるオープンピッチ審査によって大賞や準大賞などを決定し、10月28日に相良総合センター「い〜ら」で各賞の発表と表彰を行いました。

大賞を受賞した「^{エス ラ ボ}S. Lab」の事業内容は、「耕作放棄地の茶樹」と「きのこの菌糸」を原料とした梱包材を市内企業と共同開発し、環境対策と耕作放棄地対策の解決に取り組む非常に優れたものであり、第3次総合計画で重点戦略・プロジェクトに掲げる「ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現」に係る具体的な取組としても大変期待できるものであると考えております。

この他にも、茶を原料としたエナジードリンク、港に水揚げした未利用魚の活用、グランピングなど多数の事業が応募されましたので、市内での起業を支援し、スタートアップを当市の力としてまいります。

次に「子育て支援センター相良の移設整備」についてであります。

ミルキーウェイクエア内への子育て支援センター相良と相良児童館機能の移設整備につきましては、当初の計画を1年前倒しし、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して本年度中に設計及び工事を行うため、関係予算を6月定

例会において議決いただきましたが、建設資材の高騰などによって工事費の増額が必要になり、追加の補正予算を今定例会に計上しております。

当施設は、図書交流館や周辺の民間機能と連携して、子育て環境の充実を図ることをコンセプトとしており、子育て世代の定住意欲が高まる施設とするよう整備を進めてまいります。

次に「学校再編の推進」についてであります。

学校再編計画に基づく新たな学校づくりにつきましては、校地の選定や新しい学校づくり検討会の開催など、学校施設整備基本構想・基本計画の策定に取り組んでおります。

新たな学校は、都市機能の集積、集約、誘導における重要な拠点となるため、立地適正化計画の策定と併せて都市計画マスタープランの見直しを進め、学校再編計画と市全体の将来都市構造を踏まえたまちづくり計画との整合を図ってまいります。

次に「第3次総合計画の策定」についてであります。

令和5年度から始まる第3次総合計画の基本構想及び前期基本計画につきましては、市議会「第3次牧之原市総合計画に関する特別委員会」を通じて内容を御審議いただき、9月定例会において基本構想の議決をいただきました。

また、10月25日には特別委員会から第3次総合計画に関して、「議決された基本構想の理念に沿った具体的な計画が着実に予算化され、実行されることが最も重要」との提言書が提出されました。

今後は、前期基本計画における各施策の方向性や重点戦略・プロジェクトの具体化に向けて、実施計画事業の充実などに取り組んでまいります。

実施計画事業の内容につきましては、当初予算案を通じて市議会に御審議いただくとともに、市議会常任委員会などを通じて、進捗状況を適宜、報告してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

最後に、新型コロナウイルス感染症や物価高騰の長期化などによる不安がある中でありますが、外国人観光客の入国制限の見直しなどの状況変化もあり、交流人口の増加や地域経済の活性化に向けた取組との両立が重要であると考えております。

直面する課題に迅速かつ柔軟に対応するとともに、未来に向けた賑わい創出に向けて取り組んでまいりますので、市議会の皆さま、市民の皆さまに、更なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月28日

牧之原市長 杉本 基久雄